

編集後記

研究室短信

『社会学ジャーナル』43号を刊行することになりました。昨年4月に投稿規定を改訂し査読体制を整え、『社会学ジャーナル』は本号より査読誌になりました。紀要という媒体ならではの特質と学術誌としての性格を結びつけた社会学研究室メンバーの研究発表の媒体として、今後とも教員や院生から活用していただければと思います。

本年3月末に樽川典子先生が定年退職を迎えられます。1988年から30年にわたり学類および大学院において家族社会学やジェンダー社会論を中心に、社会学のカリキュラムで不可欠な科目を担当されてきました。大学運営の点においても学類および大学院で多大な貢献をされ、とくに学類において豊富な経験と知識にもとづいてバランスのとれた的確なご判断をいただき、学類運営の要としての役割を担われてきました。長年にわたるご尽力に感謝を申し上げるとともに、今後のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

大学院人文社会科学研究科国際公共政策専攻における博士論文の提出者と題目は以下の通りです。

富井 久義「ボランティア活動におけるふるまいと認識についての社会学的研究——社会的意義と参加の論理の関係」

大学院人文社会科学研究科国際公共政策専攻における修士論文の提出者と題目は以下の通りです。

尾野 千明「[大人]と[子ども]の境界をめぐる表象の社会学女性・ティーン向けファッション雑誌の分析から」

印 榮旭「韓国の少年非行における学業負担仮説の再検討」

大藪連太郎「進路としての防衛大学校——進学要因の政軍関係論的意義を焦点に」

原崎 緑「犯罪者手記と動機の語彙 「本当の動機」を問い直し続ける二つの事例から」

小野光彩紀「学校ダンス教育にみる体育教師の身体——体育教師のライフヒストリーを手掛かりにして」

丁 名揚「立身出世主義の中国にみる「素質教育」の課題——大連市の高校における「社团」の調査を通して」

- 梅原 美里「地方自治体における子育て支援住宅政策の展開——茨城県大子町を事例として」
- 目黒 茜「女医の歴史社会学——戦前における女医の啓蒙活動を中心に」
- 佐藤 知菜「学校給食の歴史社会学——近代日本における〈集団的な食生活〉への問い」
- 劉 芮竹「日本における農業実習経験の意味づけ——新世代農民工出身の中国人技能実習生の社会移動からの考察を中心に」

他専攻に御所属の先生方により、学類共通科目として、以下の授業科目をご担当いただきました。

平成29年度社会学研究室の各教員の学類および大学院において開設した授業科目は以下の通りです（社会学類／大学院人文社会科学研究科）。

- 全 教 員 = 社会の表象——社会学データ入門，卒業論文演習，卒業論文／社会学基礎理論，国際公共政策専攻リサーチワークショップ，国際公共政策専攻プロジェクト演習
- 五十嵐泰正 = 卒業論文演習，卒業論文／国際公共政策論
- エジソン・ウラノ = Transnational social policy, Social issue in Contemporary Japan, Public Policy, 社会学演習Ⅷ b／国際社会政策論Ⅰ，国際社会政策論演習Ⅲ
- 奥山 敏雄 = 社会学基礎論，社会学研究法Ⅱ，社会学外書講読Ⅱ，社会学演習Ⅱ b／医療社会学Ⅰ，医療社会学演習Ⅲ
- 葛山 泰央 = 現代社会学の系譜，社会学研究法Ⅱ，社会学外書講読Ⅰ，社会学演習Ⅲ b／知識社会学Ⅰ，知識社会学演習Ⅲ
- 樽川 典子 = 社会学研究法Ⅰ，家族社会学，社会調査実習Ⅰ b，家族社会学（看護学類）／家族社会学Ⅰ，家族社会学演習Ⅲ
- 土井 隆義 = 社会学研究法Ⅲ，逸脱行動論——犯罪社会学Ⅰ，社会学演習Ⅶ b／逸脱行動論Ⅰ，逸脱行動論演習Ⅲ
- 野上 元 = メディアと情報化の社会学，社会学研究法Ⅲ，社会学演習Ⅰ b／歴史社会学Ⅰ，歴史社会学演習Ⅲ
- 森 直人 = 社会学研究法Ⅰ，労働社会学，社会学演習Ⅸ b／労働社会学Ⅱ，労働社会学演習Ⅲ，社会学特講Ⅰ，Ⅱ，公民教育研究法Ⅰ，Ⅱ，（大学院教育研究科）
- 黄 順姫 = 現代社会論，社会学演習Ⅴ b，社会学研究法Ⅲ，社会学入門，グローバル共存・共生（全学共通，科目担当及びコーディネーター）／教育社会学Ⅱ，教育社会学演習Ⅱ，教育社会学特別演習Ⅱ（教育研究科）

このほか、他専攻にご所属の先生方（敬称略）により、学類共通科目として、以下の授業科目をご担当いただきました。

海後 宗男 = コミュニケーション論
木下 太志 = Population and Development（人口と開発）
清水 諭 = スポーツ社会学
金子 史弥
白戸健一郎 = 情報文化概論Ⅱ
仲田 誠 = 情報文化概論Ⅰ
福原 直樹 = ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ，ジャーナリズム特別演習
前川 啓治 = 文化・開発論

今年度非常勤講師として、以下の先生方（敬称略）にご出講いただきました。篤くお礼申し上げます。

稲葉振一郎（明治学院大学） = 理論社会学Ⅲ
森 千香子（一橋大学） = 共生社会学Ⅲ
[以上・社会学類]
佐藤 香（東京大学） = 社会調査方法論Ⅰ
[以上・大学院人文社会科学研究所]

『社会学ジャーナル』投稿規定

[2018年2月改正]

- 1 筑波大学大学院人文社会科学研究所国際公共政策専攻所属の教員及び大学院生等は、『社会学ジャーナル』（以下「本紀要」という。）に論文等を投稿することができる。大学院生等による投稿については、原則として、修士論文審査に合格していることを要件とする。
- 2 投稿される論文等は、未発表のものに限る。他の学術雑誌等に投稿中の論文は、本紀要に投稿することができない。
- 3 本紀要に掲載された論文は、筑波大学電子図書館（つくばリポジトリ）において公開するものとする。
- 4 掲載原稿は、研究論文、研究ノート、講義ノート、資料紹介、書評論文、書評とする。その他については、本紀要の編集委員会が決定する。
- 5 編集委員会は、本専攻所属の教員等に対して、論文その他の投稿を依頼することができる。
- 6 使用言語は、原則として、日本語又は英語とする。その他については、編集委員会が決定する。
- 7 外国語による執筆を希望する場合には、投稿者は、自己の責任において、当該言語を母国語とする者による言語上の校正を受けた上で、投稿することができる。
- 8 投稿原稿が日本語の場合には、欧文（英文）タイトルを付すること。
- 9 研究論文及び研究ノートについては、冒頭に英文の要約（200字程度）を含めること。
- 10 投稿原稿は完成原稿とし、編集委員会あてにハードコピーを3部及び研究倫理についての所定の様式誓約書を1部提出すること。併せて、同委員会あてに電子ファイルを送信すること。
- 11 本紀要は、研究論文及び研究ノートについて原則的に、レフェリー2名による査読を実施する。大学院生による投稿については、草稿が投稿に足る水準に達しているか否かを指導教員が確認し、所定の用紙に署名・押印したうえで、投稿原稿に添えて期日までに編集委員会に提出する。掲載可否は編集委員会が決定する。
- 12 執筆者には論文等の抜刷を50部配布し、それ以上の抜き刷りを必要とする場合は、実費を徴収する。

その他不明な諸点については、下記の編集委員会にお問い合わせください

連絡先：『社会学ジャーナル』・編集委員会
筑波大学大学院人文社会科学研究所 社会学研究室
305-0006 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
電話番号：029-853-4247
ファクス：029-853-4098